

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 23 年度 第 3 回理事会 資料

開催日時 平成 24 年 3 月 16 日（金）
午後 3 時 00 分から午後 5 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 1 号館 7 階 843 号室
（東京都文京区本郷 7-3-1）

平成 23 年度 第3回 理事会 次第

1. 開 会

2. 報 告 事 項

1. 情勢について
2. 2012 年大会準備報告（大会運営委員会）
（運営日程確認、大会プログラム関連、学生発表賞、展示企画申込状況、）
3. 委員会報告
 - ・役員候補者推薦委員会
 - ・男女共同参画委員会「男女共同参画学協会連絡会要望書作成について」
4. ジャーナル関連
- その他

3. 審 議 事 項

- | | |
|---------|--|
| 第 1 号議案 | 公益社団法人第 2 期（平成 24 年 4 月-25 年 3 月）事業計画書 |
| 第 2 号議案 | 公益社団法人第 2 期（平成 24 年 4 月-25 年 3 月）予算書 |
| 第 3 号議案 | 総会準備 開催日程・議題・事前送付書類確認 |
| 第 4 号議案 | 財務委員会 銀行預金口座移動について |
| 第 5 号議案 | 国際学術委員会 AGU との MOU 締結について |
| 第 6 号議案 | 大会運営委員会 セッション以外の集会について |
| 第 7 号議案 | ジャーナル関連の方針について |
| 第 8 号議案 | 総務委員会 慶弔規則 |

4. 開 会

（資 料）

1.	連合大会関連 ・ 2012 年大会日程表改定・タイムスケジュール ・ 投稿受付状況（セッション別集計・過去の統計）・参加登録状況 ・ 展示企画受付状況 ・ スペシャルレクチャー講師 ・ 学生賞エントリー状況・日程 ・ セッション以外の集会	P 1-2 P 3-8 P 9-10 P 11 P 12
2.	公益社団法人第 2 期（平成 24 年 4 月～25 年 3 月）事業計画	P 13-22
3.	公益社団法人第 2 期（平成 24 年 4 月～25 年 3 月）事業計画予算 ・ 財務諸表、概算要求委員会別集計表、固定経費明細 ・ オリンピック予算について ・ 銀行残高一覧・移動案	別添 P 23 P 24
4.	公益社団法人日本地球惑星科学連合第 1 回定期総会 ・ 開催日程・議題・事前送付書類確認	P 25-30
5.	国際関連 ・ JpGU-AGU MOU （draft from AGU）	P 31
6.	ジャーナル関連 ・ 「科研費成果公開促進費対応臨時委員会」第 1 回議事録（案）	P 32
7.	慶弔規則案	P 33
8.	会員登録状況（2012/03/15）	P 35
9.	規則集	別冊

■ 2012 年連合大会日程表 2012/3 月

2012 連合大会プログラム・システム関連					
12 月	21 日	水	○	○	2010 年大会開催全セッション web 公開
	11 日	水	○	○	投稿・参加登録開始
	3 日	金	○	○	投稿早期締切 24:00
2 月	17 日	金	○	○	投稿最終締切 12:00
3 月	12 日	金	○		口頭・ポスターコマ割案検討(コンビナー) 開始
3 月	19 日	月	○		コマ割確定
3 月	19 日	月		○	プログラム編集サイト立上準備
	"	"	○		各コンビナーへのプログラム編集開始依頼 (プログラム委員長)
	21 日	水	○		コマ割結果 WEB 公開
	21 日	水	○	○	プログラム編集サイト立上
	~28 日	水	○		プログラム編集完了 (コンビナー処理)
	28~30 日		○		最終調整
3 月	30 日	金	○		★プログラム編成終了
	"	"	○		日程案内メール内容確認・確定 (著者/共著者・発表者・座長)
	29~30 日			○	データ編集(通知メール)作業 (JTB_com)
4 月	2 日	月		○	著者/共著者・発表者・座長へ通知(日程通知)
	3 日	火	○		通知メール後微調整の結果確定連絡 (JPGU⇒JTB_com)
				○	印刷プログラム用データ送付 (JTB_com⇒JpGU⇒秋田活版)
	4 日	水		○	新聞型プログラム編集作業開始 (秋田活版へ)
	10 日	火			プログラム WEB 公開 (PDF 無)
	10 日	火		○	新聞型プログラム第 1 稿完成 (秋田活版⇒JpGU)
					新聞型プログラム校正開始
	12 日	木			高校生セッション締切 PDF・Web ページ作成 (JpGU⇒JTB_com)
	12 日	木		○	CD-ROM 用 PDF データ送付 (JTB_com⇒JpGU へ)
5 月	7 日	月	○	○	早期参加登録 登録締切 17:00
					★5/7-6/30 会員登録・変更休止
				○	当日受付用参加者データ送付 (大塚BS へ)
			○		ポスター配置案作成
			○		ポスター配置案検討・修正
				○	新聞型プログラム校了
				○	新聞型プログラム印刷 (秋田活版)
	11 日	金	○	○	プログラム WEB 公開 (PDF 有)
				○	invitation (バーコード付き PDF) メール配信
20-25 (日-金) 2012 年 連 合 大 会					
	21 日 (月)	17:30-			平成 24 年度第 1 回理事会 (旧理事)
	23 日 (水)	12:30-13:30			学協会長会議
	"	19:00-20:30			懇親会
	24 日 (木)	12:30-13:30			社員総会
	24 日 (木) or 25 日 (金)				平成 24 年度第 2 回理事会 (新理事)

3/21 アルバイト募集開始、学会関係会合先行受付、委員会・セクション関係先行受付

3/26-28 (準備でき次第) 一般会合受付募集開始

【2012 年大会 タイムスケジュール案】

日程/時間	5 月 20 日～24 日		最終日 25 日案(1)		最終日 25 日案(2)	
会場数	18 (最大)		18 (最大)		18 (最大)	
	口頭	ポスター	口頭	ポスター	口頭	ポスター
8:30 - 8:45						
8:45 -						
9:00 -	1		1		1	
9:15 -	2		2		2	
9:30 -	3		3		3	
9:45 -	4		4		4	
10:00 -	5		5		5	
10:15 -	6		6		6	
10:30 -						
10:45 -	1	コア 1	1	コア 1	1	コア 1
11:00 -	2		2		2	
11:15 -	3		3		3	
11:30 -	4		4		4	
11:45 -	5		5		5	
12:00 -	6		6		6	
12:15 -						
12:30 -						
12:45 -						
13:00 -						
13:15 -						
13:30 -						
13:45 -	1	コア 2	1	コア 2		コア 2
14:00 -	2		2			
14:15 -	3		3			
14:30 -	4		4			
14:45 -	5		5			
15:00 -	6		6			
15:15 -						
15:30 -	1	コア 3		コア 3	1	コア 3
15:45 -	2				2	
16:00 -	3				3	
16:15 -	4				4	
16:30 -	5				5	
16:45 -	6				6	
17:00 -	7				7	
17:15 -		コア 4				
17:30 -						
17:45 -						
18:00 -						
18:15 -						
18:30 -						
18:45 -						
19:00 -						
総スロット数			2574		2592	
総コマ数			414		414	
会場数			18		18	

2012 年大会セッション別発表形態別申込数

Session ID	Title	O/P	P+ 3min	P only
U-01	Toward a New Framework of Global Data Activity	13	2	2
U-02	New Progress toward the Understanding of Small Solar System Bodies: From HAYABUSA to HAYABUSA2	12	3	1
U-03	東日本 大震災からの復興にむけてー地球惑星科学と社会との関わり を考えるー	7	0	0
U-04	生命-水-鉱物-大気相互作用	24	6	6
U-05	巨大自然外力に対する水循環応答と生態系の緩和効果	13	0	1
U-06	地震学への提言	14	1	0
U-07	地球惑星科学の大学教育はどうあるべきか	1	0	0
O-01	防災教育 -災害を乗り越えるために私達が子ども達に教えること	6	0	0
O-02	高校生によるポスター発表	0	0	0
O-03	地球・惑星科学トップセミナー	3	0	0
O-04	日本のジオパークー見どころ紹介と新ジオパークの公開審査ー	1	0	1
A-AS01	Variability of atmosphere, ocean, and air-sea interaction in and over the Indian Ocean	17	1	3
A-AS02	Typhoon-Ocean Interaction in the Western North Pacific Ocean and Neighbouring Seas	11	1	1
A-AS03	Frontiers of Atmospheric Science: Extratropical air-sea interaction and Earth climate	21	5	4
A-CG05	Continental-Oceanic Mutual Interaction, Global-scale Material Circulation	16	0	0
A-GE04	Subsurface Mass Transport and Environmental Assessment	35	7	4
B-A001	Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life	14	2	4
B-P002	Biocalcification and the geochemistry of proxies	14	2	1
H-DS04	Landslides and related phenomena	11	4	2
H-DS05	Natural hazard impact on technological systems and urban areas	9	1	1
H-DS06	Natural Hazards and Disaster Reduction in Asia, Africa, and the Pacific Rim	11	1	5
H-GG01	Global Land Project	10	0	1
H-GM02	Geomorphology	11	3	2
H-SC03	地球環境変化の人的側面研究計画	11	0	0
H-TT07	GIS	9	3	1
H-TT08	Scope of climatic research by remote-sensing in Asia	14	1	1
M-IS01	From the Universe to Genomes: Histories of the Galaxy, Sun, Earth, and Life	24	2	3
M-IS02	Atmospheric Electricity	17	5	0
M-IS03	Changes in Northern Asia and the Arctic: Their feedbacks to the Globe	16	4	2
M-IS04	Deep Carbon Cycle	13	0	0
M-SD05	Earth and planetary sciences using small satellites	14	0	1
M-TT06	100Years of Geomagnetic Observations at KAKIOKA - Contributions to Centennial Progress of Geophysics	23	1	1
P-CG14	Instrumentation for space science	17	6	4
P-EM07	Space Weather	37	2	4
P-EM08	Mesosphere-Thermosphere-Ionosphere coupling in Asian sector	31	1	2
P-EM09	Current Research on Earth's Inner Magnetosphere	15	2	2
P-EM10	International Symposium for CAWSES-II and ISWI	14	2	0
P-EM11	Ionospheric response to forcing from above and below	0	0	0
P-EM12	Future TLE studies based on JEM-GLIMS and ground-based observations	11	2	0

Session ID	Title	O/P	P+ 3min	P only
P-EM13	Terrestrial and planetary magnetotails and their response to variable upstream conditions	9	0	1
P-PS01	Taking Mercury and the Moon in the laboratory	5	0	0
P-PS02	Toward future explorations of Jupiter and Saturn system	11	3	0
P-PS03	Mars	13	11	2
P-PS04	Studies of rotation, inner dynamics and gravitational fields of Solar system bodies	7	1	1
P-PS05	Asteroidal collision from meteorites and experimental works	13	1	2
P-PS06	Minerals-Water-Organics in the early solar system	10	2	0
S-CG04	Creation and Destruction of Continental Crust by Plate Tectonics	9	1	2
S-CG05	Convergent boundary dynamics: collision, subduction, crustal growth and deformation	16	0	2
S-CG06	Tectonic Evolution of the Gondwana Collision	2	2	4
S-IT02	Structure, mineral physics and dynamics of mantle	26	6	0
S-SS01	Global Collaborative Earthquake Predictability Research	15	0	1
S-TT03	Airborne surveys and monitoring of the Earth	11	0	3
P-PS21	惑星科学	35	18	9
P-PS22	隕石解剖学：太陽系物質の総合的理解に向けて	10	7	1
P-PS23	来たる10年の月惑星探査に向けた構想と戦略	19	0	0
P-PS24	宇宙における物質の形成と進化	11	2	1
P-PS25	月の科学と探査	28	14	2
P-EM26	宇宙プラズマ理論・シミュレーション	19	4	3
P-EM27	太陽高エネルギー粒子被ばく予測モデルの研究開発	14	1	0
P-EM28	太陽圏・惑星間空間	12	2	0
P-EM29	宇宙天気	13	4	5
P-EM30	磁気圏構造とダイナミクス	16	5	5
P-EM31	磁気圏-電離圏結合	16	11	0
P-EM32	大気圏・電離圏	21	9	12
P-CG33	惑星大気圏・電磁圏	20	7	10
A-AS21	大気化学	34	11	2
A-AS22	成層圏過程とその気候への影響	27	4	1
A-AS23	熱帯太平洋におけるマルチスケール大気海洋相互作用現象	21	0	1
A-AS24	都市における極端気象	14	4	6
A-OS25	海洋科学の未来を切り拓く大型研究計画の創成に向けて	12	0	1
A-HW26	同位体水文学 2012	24	9	4
A-HW27	都市域の地下水・環境地質	12	1	1
A-HW28	中部山岳地域の自然環境変動	35	3	6
A-HW29	水循環・水環境	14	5	5
A-HW30	流域の水文地質と物質循環	24	7	5
A-CC31	氷床・氷河コアと古環境変動	18	0	1
A-CC32	雪氷学	15	5	1
A-PE33	古気候・古海洋変動	34	14	6
A-TT34	新たな宇宙からの地球観測ミッションの創出	17	0	0
A-CG35	陸域・海洋相互作用－物質循環と生態系との関係－	6	3	1
A-CG36	地球環境関連データセット展覧会	18	8	0
A-CG37	北極域の科学	31	6	0
H-GG28	自然資源の利用と管理	11	0	0
H-GM21	地形	14	5	8
H-QR22	平野地域の第四紀層序と地質構造	11	3	1

Session ID	Title	O/P	P+ 3min	P only
H-QR23	ヒトー環境系の時系列ダイナミクス	18	11	4
H-SC24	人間環境と災害リスク	19	8	3
H-DS25	湿潤変動帯の地質災害	15	6	2
H-DS26	津波とその即時予測	25	2	1
H-RE27	地球温暖化防止と地学（CO2 貯留・利用、ジオエンジニアリング）	11	4	2
H-TT29	地理情報システム	12	4	2
H-CG30	堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報	3	6	0
H-CG31	海底地すべりと海底地盤変動と私たちの社会	7	2	2
H-CG32	惑星と閉鎖生態系における生物のシステム—微生物からヒトまで	5	4	2
S-GD23	測地学一般	9	2	5
S-GD24	重力・ジオイド	15	3	3
S-SS25	地震予知	10	1	1
S-SS26	強震動・地震災害	16	18	12
S-SS27	地震波伝播：理論と応用	23	2	2
S-SS28	地震発生の物理・震源過程	16	8	5
S-SS29	断層帯のレオロジーと地震の発生過程	22	10	3
S-SS30	地震活動	10	4	3
S-SS31	内陸地震に対する包括的アプローチ	9	3	4
S-SS32	地殻変動	12	5	1
S-SS33	首都直下地震防災・減災特別プロジェクト	8	5	1
S-SS34	地殻構造	9	8	10
S-SS35	活断層と古地震	25	17	13
S-SS36	プレート境界型巨大地震に誘発される内陸活断層地震	8	5	2
S-SS37	2011年東北地方太平洋沖地震の強震動と地震動災害	20	5	3
S-SS38	海溝型巨大地震の新しい描像	41	14	10
S-SS39	2011年東北地方太平洋沖地震の発生機構の解明に向けて	32	10	2
S-SS40	リアルタイム地震情報システムの発展と利活用	7	3	4
S-EM21	地磁気・古地磁気・岩石磁気	20	10	5
S-EM22	電気伝導度・地殻活動電磁気学	15	5	5
S-IT41	地球深部ダイナミクス：プレート・マントル・核の相互作用	17	7	5
S-IT42	地球構成物質のレオロジーと物質移動	21	8	3
S-GL43	地球年代学・年代層序学	11	1	3
S-GL44	地域地質と構造発達史	7	4	9
S-RD45	資源地質学の新展開：資源形成と岩石・水相互作用	10	1	1
S-MP46	変形岩・変成岩とテクトニクス	23	8	5
S-MP47	鉱物の物理化学	9	9	4
S-MP48	水素系物質と中性子の地球惑星科学	18	4	0
S-VC49	火山の熱水系	6	5	1
S-VC50	活動的火山	35	16	16
S-VC51	リアルタイム火山災害予測～基盤整備から開発まで	8	1	1
S-VC52	火山とテクトニクス	7	2	9
S-VC53	火山・火成活動とその長期予測	8	10	9
S-VC54	火山噴火のダイナミクスと素過程	18	5	3
S-GC55	固体地球化学・惑星化学	23	2	4
S-TT56	物理探査のフロンティア	11	1	1
S-TT57	合成開口レーダー	11	2	1
S-TT58	磁気層序・微化石層序—高精度年代法に向けて	10	0	0
S-TT59	地震観測・処理システム	6	1	3
S-CG60	関東アスペリティ・プロジェクト：掘削とモニタリングに向けて	6	2	3

Session ID	Title	O/P	P+ 3min	P only
S-CG61	放射性廃棄物処分と地球科学	14	1	4
S-CG62	岩石・鉱物・資源	10	5	11
S-CG63	スロー地震	14	7	1
S-CG64	ひずみ集中帯の構造とアクティブテクトニクス	18	4	6
S-CG65	流体と沈み込み帯のダイナミクス	25	10	4
S-CG66	海洋底地球科学	21	10	2
S-CG67	プレート収束帯における地殻変形運動の統合的理解	12	3	2
S-CG68	応力と地殻ダイナミクス	8	5	0
S-CG69	地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象	22	2	1
S-CG70	断層帯の化学	7	3	0
S-CG71	冥王代から現在に至る大陸地殻の形成、沈み込み、そして真の成長	12	1	0
S-CG72	沈み込み帯における地震発生と流体の役割	17	4	5
S-CG73	堆積・侵食・地形発達ダイナミクスへの学際アプローチ	14	4	2
S-CG74	2011年東北地方太平洋沖地震：地殻変動からのアプローチ	17	1	2
B-BG21	海底下の大河：海洋地殻中の移流と生物地球化学作用	17	4	3
B-BG22	サンゴ礁：生命・地球・人の接点	4	0	1
B-PT23	地球生命史	14	2	1
B-PT24	人類進化と気候変動	8	0	0
B-PT25	地球史解説：冥王代から現代まで	13	5	0
B-PT26	化学合成生態系の進化をめぐって	12	0	0
B-PT27	古脊椎動物学	10	1	3
B-PT28	古代ゲノム学	15	0	0
G-01	地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論	14	1	0
G-02	地球惑星科学のアウトリーチ	14	11	0
G-03	小中学校の地球惑星科学教育	5	1	0
G-04	高等学校の地球惑星科学教育	4	0	1
G-05	学士課程教育の現状と課題	0	0	1
M-IS21	生物地球化学	14	9	1
M-IS22	地球流体力学：地球惑星現象への分野横断的アプローチ	15	3	3
M-IS23	ガスハイドレートと環境・物質・資源科学	18	3	1
M-IS24	結晶成長における界面・ナノ現象	19	1	0
M-IS25	津波堆積物	18	15	2
M-IS26	「宇宙気候学」と気候現象論の新地平	19	0	1
M-IS27	地球掘削科学	33	10	3
M-IS28	光エネルギーを巡る生命システムの進化ダイナミクス	10	2	1
M-IS29	赤道大気レーダー10周年 ～赤道大気研究の発展に向けて～	21	4	3
M-IS30	遠洋域の進化	8	0	0
M-IS31	海洋プレートの形成と変遷：過去、現在、そして未来	24	7	0
M-IS32	ジオパーク	14	8	2
M-GI33	情報地球惑星科学と大量データ処理	17	5	1
M-AG34	福島第一原子力発電所事故による環境汚染への地球科学からの挑戦	27	3	1
M-TT35	地球惑星科学における地図・空間表現	0	7	3
M-TT37	地球化学の最前線：先端的手法から探る地球像	17	1	2
M-TT38	ソーシャルメディアと地球惑星科学	10	0	1
		2645	706	444
		3795		

(投稿締切時データ)

■ 2012 年大会投稿統計（投稿締切時データ）

	セッション数		"O/P" + "P+3min"		全投稿数		コマ数	
U/P	11	6.2%	106	3.2%	117	3.1%	33	8.1%
I	41	23.0%	678	20.2%	745	19.6%	115	28.2%
R	126	70.8%	2567	76.6%	2933	77.3%	260.5	63.8%
total	178		3351		3795		408.5	

■ 過去の統計

	全投稿数	開催セッション数	口頭発表	ポスター発表
2012	3795	178	約 2000	約 1800
2011	4044	174	2354	1690
2010	3686	167	2090	1596
2009	3088	135	1732	1356
2008	3218	134	1766	1452
2007	3121	109	1687	1434

■ 投稿受付状況 3/14 日 20 時現在

セッション記号	投稿合計 決済済				
	投稿数	投稿料金	画像数	画像料金	合計料金
ユニオン (U)	112	¥291,000	7	¥3,500	¥294,500
パブリック (O)	11	¥0	0	¥0	¥0
宇宙惑星科学 (P)	611	¥1,402,500	17	¥8,500	¥1,411,000
大気海洋・環境科学 (A)	603	¥1,432,500	28	¥14,000	¥1,446,500
地球人間圏科学 (H)	346	¥835,500	22	¥11,000	¥846,500
固体地球科学 (S)	1,404	¥3,313,500	82	¥41,000	¥3,354,500
地球生命科学 (B)	152	¥346,500	4	¥2,000	¥348,500
教育・アウトリーチ (G)	52	¥121,500	3	¥1,500	¥123,000
領域外・複数領域 (M)	514	¥1,281,000	23	¥11,500	¥1,292,500
総合計	3,805	¥9,024,000	186	¥93,000	¥9,117,000

【追加見込み】 高校生セッション 50 ジオパーク 5 トップセミナー3 学術会議ユニオン 6?

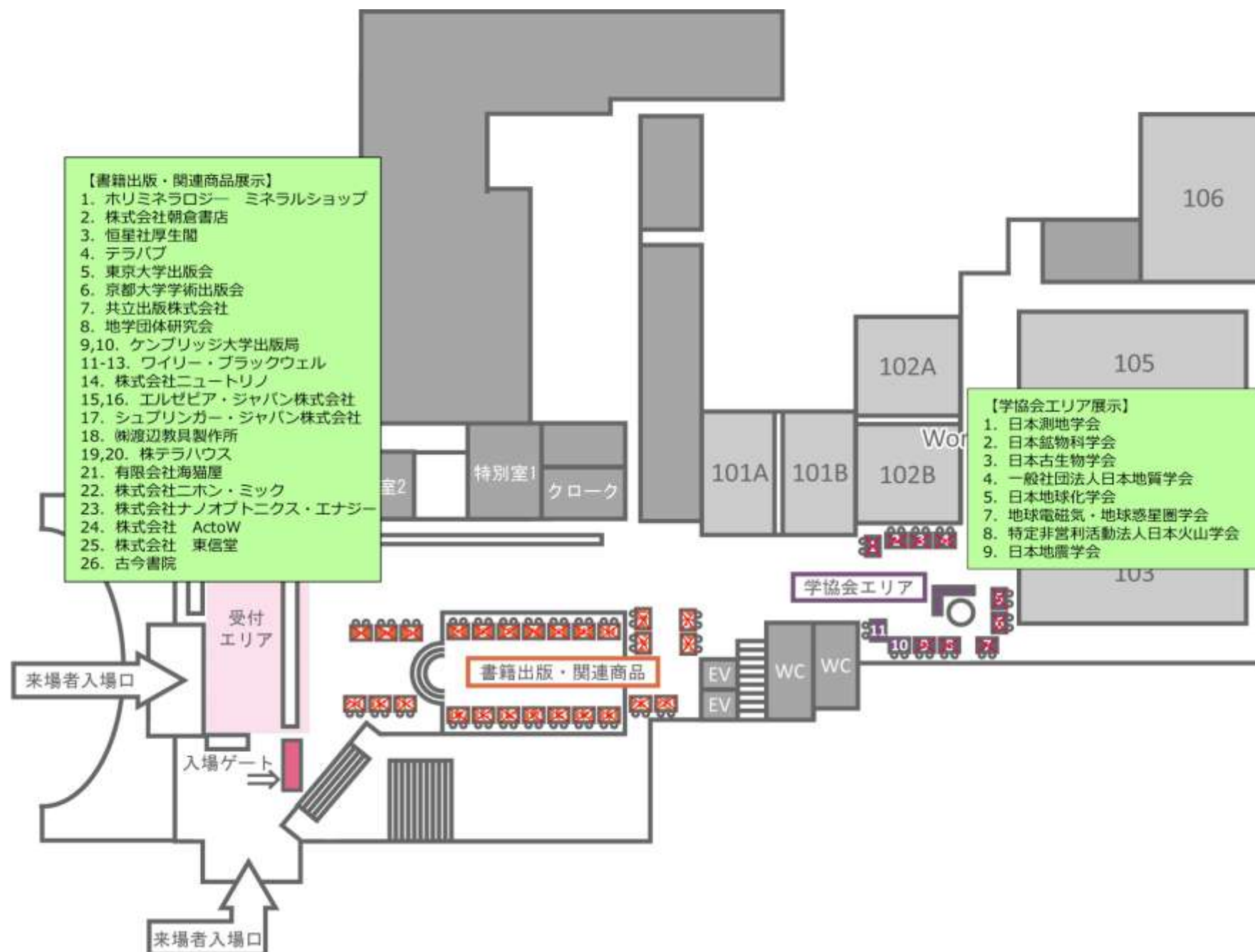
■ 事前参加登録状況 3/14 日 20 時現在 (2011 年 2803 件)

参加種別	一般	小中高 教員	大学 院生	70 歳 以上	学部 生	高校生 以下	合計
会員 全日程	561	3	200	8	12	0	784
会員 1 日券	60	1	43	0	0	0	104
会員 合 計	621	4	243	8	12	0	888
非会員 全日程	17	0	4	0	2	0	23
非会員 1 日券	14	1	4	0	0	0	19
非会員 合 計	31	1	8	0	2	0	42
全日程	578	3	204	8	14	0	807
1 日券	74	2	47	0	0	0	123
合計	652	5	251	8	14	0	930

■ 参加料金表

種別		事前参加登録料 2012 年 5 月 7 日 (月) まで		当日参加登録料 2012 年 5 月 19 日 (土) より 5 月 25 日 (金) まで	
		全日程	一日券	全日程	一日券
一般	連合会員	¥ 11,000	¥ 6,000	¥13,000	¥7,000
	非会員 (大会会員)	¥ 18,000	¥ 12,000	¥20,000	¥13,000
小中高教員 (注 1)	連合会員	¥ 5,500	¥ 3,000	¥7,000	¥4,000
	非会員 (大会会員)	¥ 11,500	¥ 8,000	¥13,000	¥10,000
大学院生・研究生 (注 2)	連合会員	¥ 5,500	¥ 3,000	¥7,000	¥4,000
	非会員 (大会会員)	¥ 11,500	¥ 8,000	¥13,000	¥10,000

■展示企画出展受付状況





スペシャルレクチャー

宇宙惑星科学セクション	野口 高明「大気の無い天体表面で何が起きているか？」
大気海洋・環境科学セクション	中村 尚「異常気象と気候変動の科学」
地球人間圏科学セクション	R.B.Singh「Research Methods in Human Geoscience: Theory and Practice」
固体地球科学セクション	丸山 茂徳 「固体地球ダイナミクスとその進化」
地球生命科学セクション	對比地 孝亘「恐竜学の最前線」

2012 年優秀学生発表賞

エントリー 総数 409

セクション別

大気海洋・環境科学セクション	95 名
地球人間圏科学セクション	42 名
固体地球科学セクション	228 名
地球生命科学セクション	44 名

今後の日程

3/19 まで	各セクションにて、エントリー者の検討、受付者確定
3/21	エントリー者へ受付受理メール発信
3/25	各セクション毎にエントリー者確定
4/02	各エントリー者の発表日時データを各セクションへ送付 (各セクションにて審査準備)
5/20-25	発表審査
5/31	審査結果を事務局へ連絡
6/01 から	受賞者公開準備、賞状・楯発注 (経費は大会運営委員会経費より支出)
6/11	連合メールニュース・ホームページにて受賞公開
6/中旬	受賞者へ賞状・楯送付
7/中旬	受賞者コメント受付締切
8/03	JGL 掲載記事締切

セッション以外集会・シンポジウム

大会運営委員会判断：水色新規「不特定多数の大会参加者を対象とし会員全般に有益なものであり、会場費・参加費などを取らずに開催するものとして採択する」

：無地従来通り

No	集会代表者	集会名称	集会内容についての説明	集会主催者団体	副代表者	人数	その他
1	永原 裕子 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	日本学術振興会 科学研究費・特別研究員制度に関する説明会	日本学術振興会の科研費・特別研究員制度の説明をおこなう。研究費などの国内外の動向、学振による科研費・特別研究員審査とその検証が如何に厳格におこなわれているかを、学振担当者が紹介し、会場の参加者からの質問に答える。	日本学術振興会学術システム研究センター	花輪	30	連合の主要な会合とバトルしない曜日、1時間を予定。
2	永原 裕子 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会	大学、大学院教育の在り方について、情報交換を行う。過去3年の実績があり。	日本学術会議地球惑星科学委員会、連合大学および大学院教育小委員会	北里洋 高橋栄一 渡邊誠一郎	100	20日（日）夜開催希望、2011年大会は、22日（日）302号室で開催、同程度の会場を希望
3	川合 義美 独立行政法人海洋研究開発機構	大気海洋・環境科学セクションボード会合	セクションボードの会議	大気海洋・環境科学セクション	中島映至	20	日時は未定です。3月中には決めたいと思います。
4	富樫 茂子 産業技術総合研究所	男女共同参画委員会	男女共同参画委員会 活動報告並びに活動方針に関する議論と決定	男女共同参画委員会	小口千明 坂野井健	20	時間は昼休みの1時間 日程は、プログラム大枠決定後、委員に対して日程調整してから決定したい。 3月下旬見込み
5	坂野井 健 東北大学大学院理学研究科	男女共同参画シンポジウム 「男性の育児休業・育児参加とワークライフバランス」	男女共同参画の一環として、研究と家庭の両立が可能な生き方について考える。このシンポジウムでは、特に、男性の育児休業・育児参加について講演と議論を行う。	男女共同参画委員会	富樫 茂子 小口千明	50	時間は夕方の1.5～2時間 日程は、プログラム大枠決定後、委員に対して日程調整してから決定したい。 3月下旬見込み
6	高橋幸弘 北海道大学大学院	東日本大震災に関する国際シンポジウム（仮）	連合大会に参加する外国人研究者を主な対象に、これまでの東日本大震災に関する日本の研究成果を発信する	連合		100	時間は1.5時間程度、夕方あるいは通常のセッションと同じ時間帯もありうる。日程は、特に固体地球に関する国際セッションの多い日を希望

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成24年（2012年）度事業計画書(案)
(平成24年4月1日から平成25年3月31日)

平成24年（2012年）度は、平成23年12月に公益法人化した日本地球惑星科学連合（以下「連合」という）が、新体制の下で本格的に地球惑星科学の進歩と普及を図り、我が国の学術の発展に寄与するとともに、社会貢献を一層推進する。現在「連合」は8000名を超える登録会員、48学協会の加盟を基礎に、ヨーロッパの地球惑星科学連合（EGU）アジア太平洋地球科学学会（AOGS）および米国地球物理連合（AGU）、などとの国際連携を強化することで地球惑星科学の更なる国際化の展開と発展を目指す。

本法人の平成24年（2012年）度の事業：「我が国の地球惑星科学界を代表しての関連科学の振興・普及活動と社会貢献」。

事業の概要：我が国の地球惑星科学界を代表して、関連科学の振興・普及のため、団体会員および個人会員からの会費や参加登録費用等を原資として、

- 1) 地球惑星科学連合大会での研究発表会・学術講演会の開催
 - 2) 文字媒体を中心とした情報発信と刊行物の発行
 - 3) 地球惑星科学コミュニティの意見集約と国および社会一般への諸要請への対応
 - 4) 地球惑星科学に関わる国際学協会との連携と国際活動推進
 - 5) 複合的自然災害（風水害、地震、火山、津波、環境）への対応と科学的提言
 - 6) 国内外の地球惑星科学の推進と学術の発展
- を目的とした事業を行う。

特に、平成24年（2012年）度の特徴としては、

- 1) 国際シンポジウムを含む日本地球惑星科学連合大会の更なる発展
- 2) 一般公開講座や高校生セッション等の開催や国際地学・地理オリンピック活動支援等を通しての、関連科学の一般への普及
- 3) 国の科学・技術政策、教育問題の検討や提言、キャリアパス支援活動等を通しての教育・キャリア支援
- 4) 科学研究費補助金（研究成果公開促進経費）への応募による電子版欧文学術誌（ジャーナル）発行準備
- 5) 財団・企業からの寄付金による連合事業の基盤強化
- 6) 義捐金による東日本大震災被害者への支援事業

が挙げられる。

以下に、本年度の事業の具体的計画について述べる。

1. 地球惑星科学連合大会での研究発表会・学術講演会の開催

1. 1 日本地球惑星科学連合 2012 年大会での学術講演会の開催

地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する研究発表を通じて、地球惑星科学の進歩と普及を図る目的で、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象に、公開で学術大会を開催し、学術講演、ポスター発表による関連分野の研究発表、情報交換の場を設ける。特に、ポスター発表を盛り上げるために3分の概要説明をおこなう。また、地球惑星科学に関連した研究教育機関、学協会、民間企業ならびに各種プロジェクトの紹介・展示を行うとともに、参加者の学術研究および教育に役立つ、地球惑星科学に関連する書籍・機器・資料の販売を行う。

期日：平成 24 年（2011 年）5 月 20 日（日）-25 日（金）

場所：幕張メッセ国際会議場（千葉市）

人数：5809 人（前年実績）+331 人（出展関係者）

- ・団体展示：44
- ・大学インフォメーションパネル展示：12
- ・書籍出版(関連商品)：26
- ・学協会エリア：個別デスク 9
- ・パンフレットデスク展示：7

1. 2 地球惑星科学連合大会の国際化

国際的リーダーシップを発揮するため、英語による国際セッションを多数設け、それらを国際シンポジウムとしてプログラム編成し、国際化を推進する。

期日：平成 24 年（2012 年）5 月 20 日（日）-25 日（金）

場所：幕張メッセ国際会議場（千葉市）

国際セッション数：44 セッション

1. 3 地球惑星科学連合大会での一般公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催

「高校生によるポスター発表」は、将来を担う高校生を対象に、授業や課外活動で行った地球惑星科学に関する研究や学習の成果を発表するために企画・開催される。従来より研究者を相手に高校生が熱心に発表している。今年度も、この活動に必要な講演募集、プログラム作成等を実施するとともに、高校生による関連活動の支援拡大に努める。

期日：平成 24 年（2012 年）5 月 20 日（日）

場所：幕張メッセ国際会議場（千葉市）

発表数：51 件（昨年度実績）

1. 4 地球惑星科学関連の「一般公開プログラム」

「一般公開プログラム」は、関係者のみならず一般人を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して、地球惑星科学の普及に資するとともに、安全・安心な社会の構築に寄与するた

めに企画・開催されている。今年度は、先端的な観測技術・分析装置や分野の融合で得られた最新の成果を紹介する以下の一般講演会を開催する。

期日：平成 24 年（2012 年）5 月 20 日（日）

場所：幕張メッセ国際会議場（千葉市）

発表セッション数：3 セッション

久本 尚義 氏 「原始太陽系の解剖学」

田中 宏幸 氏 「高エネルギー素粒子を用いた固体地球のイメージング」

浦辺 徹郎 氏 「海底下に大河は流れる」

1. 5 スペシャルレクチャ

各分野の世界的第一人者を講師に迎えて昼食時にスペシャルレクチャ・シリーズを開催する。

場所：国際会議室

對比地 孝亘 「恐竜学の最前線」

中村 尚 「異常気象と気候変動の科学」

丸山 茂徳 「固体地球ダイナミクスとその進化」

R.B. Singh 「Research Methods in Human Geoscience: Theory and Practice」

野口 高明 「大気の無い天体表面で何が起きているか？」

1. 6 関連集会の開催

関連情報を周知するために以下の集会が、大会期間中に開催され、連合は無料にて会場を提供、入場料も無料として及び広く一般の参加を募るため広報宣伝に努め、各活動をサポートする。

- 日本学術振興会科学研究費・特別研究員制度に関する説明会

日本学術振興会の科研費・特別研究員制度の説明をおこなう。研究費などの国内外の動向、学振による科研費・特別研究員審査とその検証が如何に厳格におこなわれているかを、学振担当者が紹介し、会場の参加者からの質問に答える。

（主催）日本学術振興会学術システム研究センター

- 男女共同参画シンポジウム「男性の育児休業・育児参加とワークライフバランス」

男女共同参画の一環として、研究と家庭の両立が可能

な生き方について考える。このシンポジウムでは、特に、男性の育児休業・育児参加について講演と議論を行う。

（主催）男女共同参画委員会

- 東日本大震災に関する国際シンポジウム（仮）

連合大会に参加する外国人研究者を主な対象に、これまでの東日本大震災に関する日本の研究成果を発信する

(主催) 大会運営委員会

- 全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

大学、大学院教育の在り方について、情報交換を行う。過去3年の実績があり。

(主催) 日本学術会議地球惑星科学委員会、連合大学および大学院教育小委員会

2. 学会誌その他の刊行物の発行と情報発信

地球惑星科学の進歩と普及を通じ、我が国の学術の発展に寄与することを主な目的として、地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する知識や情報の交換の促進を図る。

2. 1 「連合」学術誌出版(準備)

本法人が統一して出版する電子版欧文学術誌(ジャーナル)の発行の準備を引き続きすすめる。地球惑星科学に関する研究の枠組みの整理と発展を目指したもので、本法人の主体性を定める重要な媒体と考えるとともに、扱うトピックスは地球惑星科学全体にわたる、国際的なコミュニティへの情報発信媒体としても機能すると考えられる。この電子版欧文学術誌発行事業準備は、担当理事と経営企画会議が推薦したメンバーからなる欧文誌発行準備タスクフォースメンバーと学術出版委員会が行う。現在は、発行理念(完全オープンアクセス)、発行形態(電子媒体)と方針を決め、今後は、掲載論文種類・発行回数・ボリュームおよび予算策定、組織について、発行着手へ具体的なスケジュールを含めた検討をすすめる。また、新たな枠で募集される科学研究費補助金(研究成果公開促進経費)は、本事業のスタートアップ時の財務的援助となるので、専門委員会を設置するなどその申請を前向きに検討する、同時に「連合」に加盟する団体会員による既存の学術誌との調整を行う。

2. 2 日本地球惑星科学連合に加盟する学協会による学術誌等の出版推進

我が国の地球惑星科学および関連科学の振興と普及を目的として、「連合」に加盟する団体会員による学術誌の支援を行う。海外で開催される国際学協会の学術大会においても「連合」のブースを通じて広報普及を行う。

予定：国際学術発表会における展示：

EGU：(期日 4月7日・12日、場所 オーストリアウィーン)

AOGS：(期日 8月13日・17日、場所 シンガポール)

AGU：(期日 12月6日・10日、場所 サンフランシスコ)

2. 3 「連合」ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

研究の推進から得られた科学的成果を広く社会一般に広報し、普及することは、学協会にとって極めて重要な任務である。「連合」の会員(個人、団体)及び、科学館、博物館、高等学校教員、関連企業を対象として、これまで、広報・普及を目指してアウトリーチ誌「JGL」を毎年、4号発行してきていた。さらに充実して、研究成果の社会への広報、普及を一層すすめる。

発行予定日：年間4回(2月, 5月, 8月, 11月)

部数：26,000～30,000 部定期発行

配布先：会員（個人，団体）

国立国会図書館

科学館（日本科学未来館，日本科学技術館他多数）

博物館（国立科学博物館，神奈川県立生命の星・地球博物館他多数）

高等学校（東京都立戸山高等学校，千葉県立船橋高等学校，早稲田大学高等学院他多数）

関連企業（NPGネイチャーアジア・パシフィック，株式会社タイロス他多数）

2. 4 ウェブサイト，メールニュースを活用した広報・普及事業

「連合」は会員及び社会一般を対象に，ウェブサイトや毎月発行しているメールニュース等を通して，地球惑星科学に関連する各種ニュース，国内外の学会，シンポジウム，研究集会，公開イベントの情報や，求人・公募情報等を配信している．定期的なメールニュースを一層充実させるとともに，ウェブサイトを刷新し，会員および非会員にとってよりアクセスしやすい環境を実現する．

年間のホームページ更新数：200

年間のメールニュース数：30

3. 地球惑星科学コミュニティの意見集約と国および社会一般への諸要請への対応

地球惑星科学コミュニティの意見を民主的に集約するとともに，日本学術会議を含む国および社会一般への諸要請への対応に関わる要請に対応する．

3. 1 学協会長会議の開催（年2回）

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に，学協会長会議を年に2回開催して，地球惑星科学コミュニティの情報交換，意見集約を行うとともに，他の自然科学に関わる情勢についての情報交換を行う．「連合」理事会からの諮問，及び学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論をし，意見集約，対外的情報発信を行うことを目的とする．

第1回 期日：平成24年（2012年）5月23日（水）

場所：幕張メッセ国際会議場（千葉市）

第2回 期日：平成24年（2012年）11月予定

場所：東京大学（東京都文京区）

3. 2 国および社会一般への諸要請への対応（特に日本学術会議への対応）

国および社会一般への諸要請への対応，特に日本学術会議と地球惑星科学コミュニティの仲介役をつとめ，コミュニティへの情報伝達，意見集約などを行い，地球惑星科学の発展に寄与する．日本学術会議への対応として，以下の事項を実施する．

1) 日本学術会議が発出する声明を「連合」ホームページでの公開，地球惑星科学コミュニティへの周知

2) 日本学術会議の地球惑星科学コミュニティーからの意見収集（アンケート）のサポート

4. 国際活動の促進

国際的な学協会との連絡・協力を通じた地球惑星科学の進捗・普及・促進および我が国の学術の国際的な発展に寄与することが目的である。

4. 1 地球惑星科学に関わる国際学協会との連携および協力

我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表して、地球惑星科学に関する国際的な研究協力、交流活動の推進を図る。具体的には、ヨーロッパのEGU、米国のAGU、アジアのAOGS等の国際的な学協会と連携協力しながら、地球惑星科学の発展に資する活動を行う。地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの推進等を行う。

特に、2014年AOGS札幌大会が計画されており、連合が組織委員会を立ち上げて支援する。

EGU (European Geosciences Union) : (期日 4 月 7 日-12 日, 場所 オーストリア国ウィーン市)

AOGS (Asia Oceania Geosciences Society) : (期日 8 月 13 日-17 日, 場所 台湾国台北市)

AGU (American Geophysical Union) : (期日 12 月 6 日-10 日, 場所 米国サンフランシスコ市)

4. 2 国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

国際科学（地学・地理）オリンピックは高校生を対象として実施されている。本支援活動は、高校生にターゲットを定め、地球惑星科学への認識を高めるとともに、地球惑星科学の学習を促進し、才能・素質のある生徒を見出し、若年層による国際交流を深める目的で行われる。理科離れが言われている若者に、サイエンスにより深く触れてもらう機会を提供することであり、極めて重要な活動である。今期も、引き続き、関連する活動支援を積極的に行なう。

第 6 回国際地学オリンピック(アルゼンチン大会)

期日：平成 24 年（2012 年）10 月 8 日-18 日

場所：アルゼンチン

第 4 回アジア太平洋地理オリンピック(ドイツ大会)

期日：平成 24 年（2012 年）8 月 21 日・ 28 日

場所：ケルン ドイツ

5. 地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の蓄積された研究成果を、個々の専門的な形のみならず、統合的な形として社会へ還元することが目的である。

5. 1 複合的自然災害（風水害、地震、火山、津波、環境）への対応と科学的提言

地球上で起こる自然科学現象は複合災害として起こる場合が多い。「連合」は地球惑星科学の総合的、か

つ蓄積された研究成果を社会へ還元することを目的として、風水害、地震、火山、津波などの自然災害などについて、その解明を行うとともに対策への科学的提言を行う。特に、複合的災害に際しては、個々の専門的な形のみならず、統合的な形として社会へ還元することに重点を置く。

5. 2 複合的自然災害リテラシー普及

複合的自然災害に対して、国民の基礎知識を増加させ、もって突発的災害によるリスクを最小限とする事は、地球惑星科学がもつ社会的責務である。自然災害に関する大量の情報の中から必要なものを探しだしたり、情報を加工して意思決定したりする基礎的な知識や技能はリテラシーと呼ばれるが、この普及を支援する。

5. 3 金環日食ワークショップ

アウトリーチ企画として、5月20日に手作り眼鏡コーナーを設け、翌21日早朝7時～8時 メッセ駐車場にて、その手作り眼鏡で金環日食を見る会を開催する。

5. 4 日本のジオパークの見どころ紹介と新ジオパークの公開審査

ジオパーク活動の支援を目的に、連合大会の初日の日曜日に、ジオパークセッションを一般公開プログラムとして開催する。公開審査会場を提供し、発表者、聴講者の参加費を無料としている。また、セッションとは別に、会場1階に、ジオパーク紹介ブースを設ける。各地のジオパーク紹介、パンフレットやグッズの配布をおこない、広く一般にその活動の広報普及をおこなう。

【概要】

日本には5か所の世界ジオパークを含む20か所のジオパークがある。本セッションではそれらの見どころを分かりやすく紹介する。また、新たなジオパーク候補地がプレゼンテーションを行う。このプレゼンテーションは日本ジオパーク委員会によるジオパーク認定審査の一部である。

5. 5 地球惑星科学関連の一般公開セミナーの展開

「連合大会」期間中に「一般公開プログラム」として開催されるセミナーの他、随時に一般向けの講演会を開催する。平成23年度は以下の講演会を開催した。

「地球惑星科学人材のための進路選択・就活セミナー」

日時：2011年9月29日(木) 18:00～20:00 受付 17:30～

場所：東京大学 本郷キャンパス 理学部3号館320号室

主催：日本地球惑星科学連合キャリア支援委員会

対象：地球惑星科学分野の学生・ポストドクター

参加費：無料 事前申込み不要

「地学教育の現状とその改革」

日時：2011 年 10 月 1 日(土) ～2 日 (日) 18:00～20:00 受付 17:30～

場所：東京大学 地震研究所 1 号館 3 階セミナー室

主催：東京大学地震研究所

協力：日本地球惑星科学連合教育問題検討委員会

対象：一般

参加費：無料 事前申込み不要

「東日本大震災シンポジウムー地球人間圏学の視点
ー東日本大震災の教訓を生かして 南海・東南海地震に備えるためにー」

日時：2011 年 10 月 9 日(日) 13：00～18：15

場所：関西大学 千里山キャンパス 100 周年記念会館ホール

主催：日本地球惑星科学連合 地球人間圏セクション

対象：一般

参加費：無料 事前申込み不要

「日本地球惑星科学連合学校の先生と中高生のための公開講演会（2011 年秋の講演会）
『地球惑星科学と社会～震災を振り返り，未来へつなぐ～』

日時：2011 年 11 月 5 日(土) 14：00～17：00

場所：東京大学弥生キャンパス 弥生講堂

主催：日本地球惑星科学連合

対象：主として教員及び中高校生

参加費：無料 事前申込み有（10 月上旬より）

6. 日本地球惑星科学連合委員会活動

「連合」に加盟する学協会の会員のみならず，国内外の地球惑星科学関連分野の研究者を対象に，地球惑星科学分野の学術の推進振興をはかることを目的として，「連合」の各委員会活動を推進する。

6. 1 ユニオンおよびセクション・サイエンスボード活動

多様な分野を含む地球惑星科学を「5つの分野別セクション：宇宙惑星科学，大気海洋・環境科学，地球人間圏科学，固体地球科学，地球生命科学」とそれらを統一するユニオンサイエンスボードという新たな枠組みを設けて強力に推進する体制を構築した。各々の分野と統合化された地球惑星科学の更なる発展をめざす活動をこのサイエンスボードを通して実施する。今期は，この新たなサイエンスボード体制を本格的に始動させることとなる。そのための諸施策を推進する。

6. 2 各委員会開催日程（予定）

5 月

総務委員会

5月開催（5月20日-25日 連合大会会期中）幕張メッセ国際会議場

財務委員会

4月上旬 日本地球惑星科学連合事務局会議室

25年3月上旬 日本地球惑星科学連合事務局会議室

広報普及委員会

5月開催（5月20日-25日 連合大会会期中）幕張メッセ国際会議場

9月上旬 東京大学理学部会議室

他メール会議

環境災害対応委員会

5月開催（5月20日-25日 連合大会会期中）幕張メッセ国際会議場

10月中旬 東京大学理学部会議室

男女共同参画委員会

5月開催（5月20日-25日 連合大会会期中）幕張メッセ国際会議場

キャリア支援委員会

5月開催（5月20日-25日 連合大会会期中）幕張メッセ国際会議場

教育問題検討委員会

5月開催（5月20日-25日 連合大会会期中）幕張メッセ国際会議場

大会運営委員会・運営企画会議

6月上旬 東京大学理学部会議室

平成25年

1月上旬 東京大学理学部会議室

2月上旬 東京大学理学部会議室

3月上旬 東京大学理学部会議室

情報システム委員会

5月開催（5月20日-25日 連合大会会期中）幕張メッセ国際会議場

他メール会議

国際学術委員会

5月開催（5月20日-25日 連合大会会期中）幕張メッセ国際会議場

他メール会議

[小委員会ほか]

プログラム編成会議

12月上旬 東京大学理学部会議室

プログラム委員会

5月開催（5月20日-25日 連合大会会期中）幕張メッセ国際会議場

大学大学院教育小委員会

5月開催（5月20日-25日 連合大会会期中）幕張メッセ国際会議場

教育課程小委員会

2012年4月 東京都立小石川高等学校

2012年7月 東京都立小石川高等学校

2012年10月 東京都立小石川高等学校

2012年12月 東京都立小石川高等学校

2013年2月 東京都立小石川高等学校

以上.

西 財務委員長 殿

地学オリンピック及び地理オリンピック事業推進のため、連合来年度予算への地学・地理オリンピック事務局経費計上のお願い。

要望事項

地学オリンピック、地理オリンピックの事業推進のために、日本地球惑星科学連合の平成24年度予算において、両オリンピックの事務局維持のための費用として金80万円を計上頂くようにお願いします。

経費内訳 計 800,000 円

部屋代 39690 円＋共用光熱費 22050 円計 61740 円/月 × 12＝740,880 円

電話、光ネット等 59,120 円

理由説明

公益社団法人日本地球惑星科学連合では 地学オリンピック、地理オリンピックの活動を、公益事業として推進しています。実際の地学オリンピック、地理オリンピックに関わる費用は主として JST の助成金によってまかなわれています。しかし、この助成金は、オリンピックの国内大会の実施、国際大会への派遣のための費用はカバーされていますが、活動を実施するための定常的な運営組織や事務局維持のための費用は含まれておらず、各分野のコミュニティーが負担することとなっています。本要望はこの両オリンピック推進のために必要となる事務局の維持のための費用を、地球惑星科学コミュニティーを代表する公益社団法人日本地球惑星科学連合にお願いするものです。

これまで地学オリンピックの事務局は日本地球惑星科学連合の事務局に間借りし、地理オリンピックは日本地理学会内においていました。従来の JST の助成金からは人件費を出すことも難しく事務職員を雇うことも困難なため、このように事務局がなくても良かったのです。しかし JST の科学オリンピック助成事業も来年度から新たな5カ年が始まり、多くのオリンピックの担当者からの要望を反映して、人件費が全助成金の20%までは認められ、事務処理のために人を雇うことが可能となり、両オリンピックの事務局の場所を確保する必要がでて来ました。もちろん、各分野のコミュニティーからの分担は必要とされていますが、オリンピック推進の立場からは大きな前進と言えます。

事務局に関しては、地学オリンピック及び地理オリンピックでそれぞれに事務局を持つ余裕はありませんが、現在の連合の事務局にも近く、また現在地理オリンピックの事務局を置く日本地理学会の向いの部屋を、確保することができました。この場所は地学オリンピックにとっても、地理オリンピックにとっても、事務局職員の拠点として、ほとんどユニークな最適の場所と言えます。

ぜひ日本地球惑星科学連合が実施する公益事業である地学オリンピック及び地理オリンピックの今後の健全な発展のために、地球惑星科学コミュニティーを代表して、上記経費を公益社団法人日本地球惑星科学連合の予算として、計上頂くようにお願いします。

地学・地理オリンピック担当
浜野洋三

銀行残高一覧表

2012/2/29 現在

1) 平成 24 年 2 月 29 日現在状況

普通預金			
	三菱東京 UFJ	16,426,765	
	みずほ銀行 A	2,236,978	
	みずほ銀行 B	2,501,024	記念大会準備金
	みずほ銀行 C	1,478,510	東日本大震災義捐金
	みずほ銀行 D	3,001,230	学術雑誌準備金
	みずほ銀行 E	3,500,907	WEB 改善準備金
	千葉銀行	25,694,298	連合大会用
	計	54,839,712	
定期			
	みずほ銀行	5,000,000	
	銀行総合計	59,839,712	

2) 案

普通預金			
	三菱東京 UFJ	14,839,712	
	みずほ銀行	10,000,000	
	郵貯銀行	10,000,000	
	千葉銀行	10,000,000	
	りそな銀行	10,000,000	
	計	54,839,712	
定期			
	みずほ銀行	5,000,000	
	銀行総合計	59,839,712	

公益社団法人日本地球惑星科学連合第1回定時社員総会 日程・議事確認

社員各位

平成24年5月 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
会長 木村 学

第1回定時社員総会招集ご通知

拝啓 時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

さて、当法人第1回定時社員総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

お手数ですが、会場準備の都合上、同封の出欠回答書を平成24年5月15日（火）までに、当法人事務局へFAXにてご返送のほどお願い申し上げます。

なお、代議員の方でご欠席の方につきましては、別紙「委任状」に住所、氏名をご記入、押印の上、平成24年5月15日（火）までに必着で事務局あてへ「同封の返信用封筒」で郵送下さるようお願い申し上げます。

また、団体会員で代表者のご欠席の場合は、別紙「委任状」または、代表者以外で出席者を指定される場合は、別紙「指定書」に住所、氏名、出席者氏名、団体での地位をご記入、押印の上、平成24年5月15日（火）までに必着で事務局あてへ「同封の返信用封筒」で郵送下さるようお願い申し上げます。

敬具

記

1 日 時 平成24年5月23日（木）12時30分～13時30分

2 場 所 千葉幕張メッセ国際会議場 302（仮）
（〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 2-1）

3 目的事項

報告事項

- (1) 一般社団法人第4期事業報告の件
- (1) 公益社団法人第1期事業計画書及び収支予算書等の件
- (1) 公益社団法人第1期事業報告の件
- (1) 公益社団法人第2期事業計画書及び収支予算書等の件

決議事項

- (1) 第1号議案 一般社団法人第4期決算承認の件
- (2) 第2号議案 公益社団法人第1期決算承認の件
- (3) 第3号議案 役員候補者推薦委員会規則変更の件

以上

議案の概要

第1号議案 一般社団法人第4期決算承認の件

本議案は、一般社団法人第4期貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）及びこれらの附属明細書並びに財産目録について、監事の監査報告を踏まえて、その承認を求めるものである。

第2号議案 公益社団法人第1期決算承認の件

本議案は、一般社団法人第1期貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）及びこれらの附属明細書並びに財産目録について、監事の監査報告を踏まえて、その承認を求めるものである。。

第3号議案 役員候補者推薦委員会規則変更の件

本議案は、役員候補者推薦委員会規則の一部を別紙のとおり改正し、その趣旨を明確化するものである。

以上

定時社員総会出欠回答書

公益社団法人日本地球惑星科学連合
会長 木村 学 殿
(FAX : 03-6914-2088)

社員氏名 (団体名及び代表者名)

第1回定時社員総会に出席・欠席します (いずれかに○)。

恐れ入りますが、本書を平成24年5月15日(火)までに、当法人事務局へFAXにてご返送下さりますようお願い申し上げます。

FAX : 03-6014-2088

【※ 5月15日(火)までに御回答願います。】

社員総会の代理出席等について

1 社員総会の代理出席及び議決権行使の委任について

- (1) 代理人の資格代議員たる社員及び団体会員たる社員は、他の代議員たる社員を代理人に定めることができます。
- (2) 代理人は、提出された委任状と照合する方法により、出席資格の確認を受けます。
- (3) 代理人欄が空欄の委任状が提出された場合には、社員総会の議長が選任されたものとみなします。

2 団体会員の出席者の指定について

- (1) 団体会員たる社員は、その団体の役員、会員、社員若しくは使用人を指定して社員総会に出席させることができます。
- (2) 被指定者は、提出された指定書と照合する方法により、出席資格の確認を受けます。

社員総会の代理出席及び議決権行使を委任される場合または出席者の指定をされる場合は同封の委任状・指定書にご記入の上、原本が必要となりますので、5月15日（火）までに、同封の返信用封筒で、当法人事務局へご返送ください。

（送付先）

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階

FAX : 03-6914-2088

一般社団法人日本地球惑星科学連合事務局

委任状

(ご欠席の場合)

平成 年 月 日

住所

委任者

㊞

私は、次の者を代理人と定め、下記の事項を委任します。

氏名

記

平成 24 年 5 月 23 日に開催される公益社団法人日本地球惑星連合第 1 回定時社員総会に出席し、議決権を行使する一切の権限

【※ 5 月 15 日（火）までに御返信願います。】

指定書

(団体会員たる社員の場合)

平成 年 月 日

団体住所

指定者

学協会名

代表者名

代表者印

当団体は、次の者を平成 24 年 5 月 23 日に開催される公益社団法人日本地球惑星科学連合第 1 回定時社員総会に出席し、議決権を行使する者として指定します。

氏名

当団体における地位：

【※ 5 月 15 日（火）までに御返信願います。】

**MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
BETWEEN
JAPAN GEOSCIENCES UNION (JpGU) AND
AMERICAN GEOPHYSICAL UNION (AGU)**

Joint activities between AGU and JpGU foster international exchange in scientific research and promote international opportunities of the membership of both organizations. To that effect, JpGU and AGU will promote the following activities:

1. Exchange of information on key programs and initiatives
2. Expansion of membership of both organizations through possible joint programs
3. Exchange of information and possible joint activities concerning educational opportunities, student programs, and professional services.
4. Exchange of information and possible co-organization of scientific conferences.

In recognition of mutual interests among their members and as a means of furthering the common goals and objectives of both organizations, the collaborations are carried out under the following terms:

1. Neither organization shall have any financial obligation to the other.

Each organization will offer the other organization a booth at its annual meeting at a rate of at least 50% below the regular exhibit fee. If a charge is to be levied this will be agreed at least 6 months before the meeting in question.

2. Both organizations will seek collaboration where appropriate.
3. Both organizations will seek collaboration between the business offices.
4. The respective Union leadership will meet on a regular basis (e.g. in connection with the respective annual meetings) to discuss issues of mutual interest.

This agreement may be dissolved by either organization at any time with 30 days of notice. The agreement shall be reviewed every three (3) years.

PRESIDENT OF JpGU



PRESIDENT OF AGU



VICE PRESIDENT, JpGU

EXECUTIVE DIRECTOR, AGU

DATE: _____

DATE: _____

「科研費成果公開促進費対応臨時委員会」

第1回委員会議事要録（案）

日時：2012年3月15日 11時より12時20分

場所：東京大学理学部1号館710号室

出席者：木村学，津田敏隆，川幡穂高，中村正人(連合)，大谷栄治(連合，日本鉱物科学会)，木谷日出男(日本応用地質学会)，寄高博行(日本海洋学会)，中田節也(日本火山学会)，佐藤正樹(日本気象学会)，井龍康文(日本古生物学会，日本地質学会)，加藤照之(日本地震学会，日本測地学会)，椎葉充晴(水文・水資源学会)，中尾正義(日本雪氷学会)，水野清秀(日本第四紀学会)，馬場勝良(日本地学教育学会)，豊田栄(日本地球化学会)，家森俊彦，小田啓邦(地球電磁気・地球惑星圏学会)，佐脇貴幸(日本地熱学会)，若林芳樹(日本地理学会)，篠原也寸志(日本粘土学会)，楊宗興(日本陸水学会)，永原裕子(日本惑星科学会)

以上23名

1. 川幡事務局担当理事より「科研費成果公開促進費対応臨時委員会」について，第1回委員会以降の動向，および今後の方針についてpptを使用して説明があった。
- A. 文部科学省の方針は，「我が国の国際情報発信力強化の取り組み」，「e-journal」で，Open accessは必須ではないが，推進されることなどが説明された。
- B. 前回質問のあった，Open Access Journal のビジネスモデルについて，既存の図書館への販売を主体としたJournalとの比較，利点などについて説明があった。
- C. 世界的傾向として，新規JournalはOpen Accessであること，また，今回の文部科学省の方針もより高いレベルでの学術情報発信であることから，AGUなど学会主導で質の高い学術情報発信を目指すタイプの学術出版をめざすことに，理解が深まり，反対意見はなかった。
2. 木村会長より，AOGSなどを例として東アジアにおける地学に関する学術の動向について発言があり，今回の科学研究費補助金などをてこに日本からの海外への情報発信が重要であることが強調された。
3. 既存の学会誌の扱いについては，さまざまなケースがあるので，今後議論することとなった。本件に関してセクションボードとの関係についても質問があった。公益社団法人日本地球惑星科学連合としては，まずは学会誌を出版していて影響の大きな各学会への正確な情報提供を優先させたことについて理解を求めた。なお，明日の理事会では，セクションボードとの情報共有についても議論されるであろうとの発言があった。
4. 4月中頃までに「科研費成果公開促進費対応臨時委員会」第2回会議を開催する予定で，日時は後日決定されることとなった。

慶弔規則

(趣旨)

第1条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下「本法人」という。）の役員及び事務局職員の慶弔に関し必要な事項を定めるものである。

(範囲及び方法)

第2条 本法人は、次の各号に掲げる者が死亡した場合、弔意電報を打ち（5,000円程度）、供花を行う（20,000円程度）。但し、第3号に掲げる者については、その旨の連絡を本人から受けた場合に限るものとする。

- 1 本法人の役員（理事及び監事）
- 2 本法人の事務局職員
- 3 前2号の家族（親、子及び配偶者）

附則

この規則は、平成24年〇〇月〇〇日から施行する。

■会員登録状況 (3/15 現在) 未決済の数字 2012、2011、2010 年各年度それぞれ 1 回とカウント

種別		一般	小中高教員	大学院生	シニア	正会員 合計	学部生	高校生以下	准会員 合計	合計
宇宙惑星	会員数	714	11	464	17	1,206	32	2	34	1,240
	内未決済	188	4	179	6	377	0	0	0	377
大気海洋・ 環境	会員数	1,151	10	533	11	1,705	52	2	54	1,759
	内未決済	340	5	219	2	566	0	0	0	566
地球人間圏	会員数	759	8	192	16	975	31	2	33	1,008
	内未決済	276	2	89	8	375	0	0	0	375
固体地球	会員数	2,050	38	882	35	3,005	120	16	136	3,141
	内未決済	444	18	338	11	811	0	0	0	811
地球生命	会員数	345	2	184	4	535	15	0	15	550
	内未決済	91	0	72	3	166	0	0	0	166
地球惑星科 学総合	会員数	557	64	156	12	789	45	5	50	839
	内未決済	216	20	77	3	316	0	0	0	316
合計	会員数	5,576	133	2,411	95	8,215	295	27	322	8,537
	内未決済	1,555	49	974	33	2,611	0	0	0	2,611
非会員人数		456	4	120	6	586	38	4	42	628
現在の会員数+非会員人数		6,032	137	2,531	101	8,801	333	31	364	9,165

参照 (2012/1/20 現在)

種別		一般	小中高教員	大学院生	シニア	正会員 合計	学部生	高校生以下	准会員 合計	合計
宇宙惑星	会員数	668	11	431	16	1,126	26	2	28	1,154
	内未決済	199	4	179	7	389	0	0	0	389
大気海洋・ 環境	会員数	1,027	10	470	10	1,517	41	2	43	1,560
	内未決済	345	5	219	2	571	0	0	0	571
地球人間圏	会員数	717	7	176	14	914	27	2	29	943
	内未決済	281	2	95	8	386	0	0	0	386
固体地球	会員数	1,975	36	776	32	2,819	100	15	115	2,934
	内未決済	486	15	346	12	859	0	0	0	859
地球生命	会員数	315	2	161	3	481	13	1	14	495
	内未決済	94	0	75	2	171	0	0	0	171
地球惑星科 学総合	会員数	532	63	147	11	753	45	4	49	802
	内未決済	223	20	73	2	318	0	0	0	318
合計	会員数	5,234	129	2,161	86	7,610	252	26	278	7,888
	内未決済	1,628	46	987	33	2,694	0	0	0	2,694
非会員人数		265	1	60	3	329	11	0	11	340
現在の会員数+非会員人数		5,499	130	2,221	89	7,939	263	26	289	8,228

参照 (2011/10/21 現在)

種別		一般	小中高教員	大学院生	シニア	正会員 合計	学部生	高校生以下	准会員 合計	合計
宇宙惑星	会員数	604	9	351	15	979	25	0	25	1,004
	内未決済	167	5	98	11	281	0	0	0	281
大気海洋・ 環境	会員数	857	7	343	9	1,216	46	1	47	1,263
	内未決済	327	4	107	5	443	0	0	0	443
地球人間圏	会員数	581	5	145	13	744	20	0	20	764
	内未決済	204	3	38	9	254	0	0	0	254
固体地球	会員数	1,743	33	637	33	2,446	73	1	74	2,520
	内未決済	379	16	186	21	602	0	0	0	602
地球生命	会員数	233	1	119	3	356	13	0	13	369
	内未決済	94	1	41	3	139	0	0	0	139
地球惑星科 学総合	会員数	438	48	121	7	614	40	1	41	655
	内未決済	175	19	48	5	247	0	0	0	247
合計	会員数	4,456	103	1,716	80	6,355	217	3	220	6,575
	内未決済	1,346	48	518	54	1,966	0	0	0	1,966
非会員人数		348	1	65	4	416	16	0	16	434
現在の会員数+非会員人数		4,804	104	1,781	84	6,773	233	3	236	7,009